



石岡市議会議員

櫻井 茂

活動報告

令和3年(2021年)
6月7日発行 第24号

■発行/櫻井しげる後援会 ■住所/315-0013 茨城県石岡市府中3-11-28
■電話/自宅 0299-22-3881 ■FAX/0299-22-3881 ■携帯 080-3150-8451
■WEB <http://www.sakurai.click/> ■E-Mail sakurai@sakurai.click
■Facebook <https://www.facebook.com/shige.sakurai.3> **討議資料**



令和3年度がスタート。県職員として経験と実績豊富な田所副市長の就任は嬉しいニュースです。一方、地域医療問題の頓挫、旭台会館問題ははじめとして職員が上司・同僚に対して「報告・連絡・相談」をキチンと履行できずに問題をこじらせている事案が散見されます。問題のある案件の多くは、議会への丁寧な説明と報告を怠っていることも特徴的です。意思決定の際の手続きには一定のルールがありますが、「慣れ」「無自覚」が常識では考えられない失敗につながっています。市長・副市長に指導力発揮をお願いし、議員としてのチェック機能を早めに発揮できるよう努めてまいります。

一、地域医療問題は新展開に

(1) これまでの経緯

石岡地域医療計画の中心的役割を果たす第一病院の経営母体である地域医療振興協会は、石岡市議会の議会審査過程で協会の名誉を傷つける発言等が続いたこと、さらには新型コロナウイルス対応等により、第一病院の公立化提案を取り下げ、地域医療問題は振出しに戻ってしまいました。

第1回定例会では、地域医療の再検討に向け調査費300万円が市長から提案され可決。石岡地域医療計画が再スタートしたかに見えましたが、

(2) 山王台病院が医師会病院を買収

令和3年3月末日で診療行為を取りやめた石岡市医師会病院が買収されるようだとの話が、4月初旬から聞こえてきました。その後、医師会病院の買収話は、山王台病院Ⅱ医療法人幕内会が進めていることがわかりました。

5月9日の朝刊に『山王台病院 増床予定につき 職員採用スタート』の文字が踊る折り込み広告が入りました。

病床については、120床のうち80床を活用する見込みであること。旧石岡市医師会病院での外来診療行為の復活も想定されているが、診療科目や診療日は不明。山王台病院が病床80床をどのように活用するのか、これにより産婦人科等の新設を行うのかにも関心が高まります。

山王台病院の病床増による事業拡張は、石岡地域医療計画の求める内容を満たすものではないため、その差を埋める手法や取組みについては、市民の声も聞く必要があると思います。



(3) 小児科の緊急診療を確保

朗報です。石岡第一病院が筑波大医学部の協力を得て休日の小児科診療を拡充することが発表されました。診療日は、日曜・祝日・年末年始の午前9時～12時となります。これにより一年365日にわたり小児科の診療が行われることになり、7月診療開始予定で準備が進んでいます。

一、ワクチン接種は前倒しに

(1) 高齢者のワクチン接種開始

5月15日号の広報紙に **ワクチン接種予約開始**のお知らせが折り込まれました。ワクチン接種には予約が必要となり、石岡市新型コロナウイルスコールセンターで6月7日(月)午前8時30分から予約を受け付け、**予約可能対象者は、75才以上の市民の方**となっています。しかし、菅総理の意向で、65才以上の高齢者に対するワクチン接種を7月末までに完了するよう求める通知が4月30日に都道府県に出されたのを受けて石岡市では、95才以上は5月24日から、90才以上は5月27日からワクチン接種が開始されました。その後、88歳以上(5月31日)、86歳以上(6月1日)の前倒し接種を進めています。



(2) 今後の接種予定

75才以上の接種後に65才以上の接種についても、ワクチンの入荷状況に合わせて当初予定が早まるものと思います。接種日は、1回目の3週間後の同じ曜日が2回目接種日に指定されるため、電話予約の際は、事前に接種者のスケジュールの確認をお勧めいたします。なお、予約確定後には予約票と予約券が郵送されてきます。

三、第1回定例会で行った一般質問

(1) 救急医療の環境低下防止への取組について

石岡市医師会病院が救急対応と緊急診療を中止し、地域の救急医療の環境低下が一層進んでいきます。今後、どのように救急医療の環境低下を防ぎ、住民の命と健康を守るのか質問します。

(消防長療養休暇により次長が答弁しています)

(1) 救急車の運用方法について伺う

消防本部次長答弁要旨 救急車は、市内5施設に各1台配置。各救急車には救命士を1名以上配置し3名で出勤。コロナ感染症の二次感染防止対策に努め、使用後の入念な車内消毒を実施している。

(2) 救急搬送の現状について伺う

消防本部次長答弁要旨 搬送件数は：(左表参照)

令和2年搬送件数はコロナ禍の影響で社会活動が制限され減少している。119番通報から現場到着の間は、平成30年・令和元年ともに県は3分、国は7分です。

再質問 年間3千人の救急搬送者の内、2千人が市外の医療機関に搬送され、搬送時間は16分長くなる。隊員の対応と役割を伺う。

項目 年	救急搬送件数	現場到着時間	現場から病院	
			市内	市外
H30	3,169件	8.5分	27分	43分
R01	3,327件	8.5分	27分	43分
R02	2,874件	9.0分	29分	45分

消防本部次長答弁要旨 例えば、心肺停止者へは、呼吸管理及び病院選定、処置内容の記録、医療機関到着まで、心臓マッサージを継続します。また、医師の指示のもと救命士が静脈を確保、心臓を動かすための薬剤投与を実施する。

再質問 隊員の熱意と努力では解決できない、搬送先が決まらない救急困難事案について伺う。

消防本部次長答弁要旨 令和2年の医療機関選定回数は、3回が219件、4回が121件、5回が134件。医療機関到着の最長時間は169分を費やしている。

提言 医療機関への救急搬送は、市内7割、市外は3割が望ましいという専門家の意見を聞いています。

人口10万人当たりの医師数は、全国は240人、石岡市は89人と極めて少ない。小美玉市は34人、かすみみがうら市は16人、合計で139人とかなり全国平均の58%という危機的な状況です。



自分・家族、友人が救急車で運ばれる際、1分1秒でも早くと願いつつも救急対応の医師がいないという現実を甘んじて受け入れることができるのか、私たちは真剣に考える必要があります。

(3) 救急車の受け入れ状況が医療機関により差があることについて認識と改善策を伺う。

消防本部次長答弁要旨 救急車の受け入れ強化に向けて市内医療機関に受け入れ協力要請をしている。保健福祉部長答弁要旨 各種電話相談や医療相談アプリWEBを案内している。緊急診療は、石岡市と同じ医療圏の土浦市に協力依頼をかけている。

再質問 消防本部と保健福祉部の間で、救急医療の現状を意見交換しているのか伺う。

保健福祉部長答弁要旨 救急医療を担う消防本部関係医療機関、医師会等との課題共有・検討の場も必要と考え検討を始めたところ。

再質問 石岡市が求めた公立病院像は、提案では17名の医師が来る予定でしたが幻になりました。一方、今現在の緊急医療環境の低下は、改善に向けた新たな提案や議論もなく置き去りの状況です。今日・明日の緊急医療の対処を市長に伺う。

市長答弁 緊急医療体制作りを重要事項と捉え取組んでいる。まずは休日・夜間診療の復活に、先頭に立って全庁をあげて取組んでまいりたい。

(2) ナラ枯れ防止対策について

石岡市は温暖な気候に加え、筑波山系の山々を擁し、豊かな緑、森林が動植物を育み歴史を重ねてきました。しかし、全国的にナラ枯れが大きな問題として取り上げられており、筑波山系でも発見され始めました。被害防止対策を伺います。

(1) ナラ枯れ被害の実態について

経済部長答弁要旨 ナラ枯れは体長5ミリの通称カシナガという昆虫が媒介するナラ菌により、ナラ類やシイ、カシ類の樹木が枯れる病気。カシナガが幹に穴を開け内部に侵入し繁殖し通水が阻害され7月から8月に葉が変色し枯れてしまう。

再質問 被害の把握状況について伺う

経済部長答弁要旨 全国各地に被害が拡大している。昨年9月につくば市で確認されたが、石岡市の被害は確認されていない。

再質問 かすみみがうら市三ツ石森林公園で発生したとの情報があり、石岡市半田・弓弦・芝内と接している地域でもある。市は調査しているのか伺う。

経済部長答弁要旨 調査はしていない。

(2) ナラ枯れ防止対策について伺う

経済部長答弁要旨 予防は、殺菌剤の樹木注入やビニールシートの巻き付け等。駆除は、成虫が羽化して木から出てくる前の4月迄に伐採し焼却または破砕、切り株や根株全体をシートで覆う燻蒸処理。感染後に樹木の枯死を防ぐ方法は無い。

再質問 被害木の処分は数十万かかる。県は平成33年まで茨城県森林湖沼税を賦課している。筑波山周辺自治体と協力して県に対して税を活用したナラ枯れ対策の早急な実施を働きかけていただきたいが、市長の見解を伺う。

市長答弁 今後、情報収集に努め、対策を先取りするため、国・県・関係団体と連携して早急な対応をして参ります。

四. 旭台会館駐車場返還和解案を否決

(1) 旭台会館駐車場をめぐるこれまでの経緯

旭台会館は、平成15年に（財）彦市山八軒向区画整理組合から寄贈を受けた施設。17台分の駐車スペースしかなく、利用者から増設要望が出ていました。



平成29年4月、旭台会館隣接地（約860㎡）をI社から借地し、駐車場を増設。その後、所有権がH社に譲渡される見込みとなったところから、平成29年9月の第3回定例会に、957万円で購入する予算案が提案されました。しかし公共施設の利活用計画が曖昧で、土地評価額への疑問に加え唐突な提案であるとして借地購入議案は否決されました。

(2) 市は借地駐車場を不法占拠

平成31年度予算案に駐車場購入経費が提案されましたが、他の事業予算も含め議員多数から疑義が続出し、当初予算案は否決。その後、担当部は借地料を予算計上せず、石岡市は借地駐車場を不法に占拠する状態になりました。

令和2年度も借地料は予算化せず、地権者のH社から契約解除と用地返還請求が出されました。

(3) 原状回復工事後に返還する和解案を可決

令和2年9月の第3回定例会に、原状回復に向けた駐車場砂利撤去工事予算600万円及び原状回復後の借地返還及び未払い借地料54万7千円を支払う和解案が提示され、議会が了承可決。11月に原状回復工事入札が行われた事で、年度内に駐車場は返還されるものと思っていました。

(4) 和解案履行できず新たな和解案提出

令和3年第1回定例会閉会直後、市長は第3回臨時会を3月25日に招集しました。

提出された議案は、9月に可決した和解案を市が履行できなくなったため、工事費600万円を減額し損害賠償金額として579万5千円を地権者に支払うことで新たに和解するという内容です。

その理由として市は、駐車場の原状回復工事着工に向けて、地権者に敷地立ち入り許可要請と工事内容説明を行った際、地権者から「砂利撤去後に埋め戻す土では3月から作物を栽培するには不適である」との申し出があった。発注した工事内容の変更は難しく、公共工事等で発生する残土等を利用できないか検討。しかし必要量の確保が見込めず、年度内に不法占拠状態を解消するため、**金銭での解決を地権者に求めた**というものです。

(5) 新たな和解案は賛成少数で否決

議案に対する質疑と討論では、地権者が求める作物栽培に適した土の質を市が保証すべき責任は無いにも関わらず譲歩したのではないかと。また、議会が議決した**和解案を説明もいまま勝手に変更しようとした**執行部に対して、悪しき前例となりにかねないとして、和解議案は賛成1名×反対20名により賛成少数で否決されました。

(6) 執行部の事務執行体制の改善決議を可決

和解議案否決後、『審議結果の誠実な執行及び事務執行体制の改善を求める決議』が動議として提出されました。内容は「9月に議決した和解案は団体の意思であり、執行部は誠実に履行する義務がある。今回の議案は、当市の信頼を大きく損ねる。市における事務執行体制を改善し、真に市民のために邁進することを強く要望する」採決では、退席した議員1名を除き議員全員が賛成して決議は可決されました。

五. 第4回臨時会

(1) 新型コロナウイルス感染症対応臨時交付金

第4回臨時会が4月28日に招集されました。市長が提案した議案は、国庫補助金である「新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金」を原資とする補正予算総額5億51万9千円。議案は全会一致で可決されました。

(2) 議案質疑

第1回定例会で、救急搬送について質問したこともあり、消防関係経費について質疑しました。

① 高規格救急車1台を購入し、配備先は石岡本署とする。現在使用している車は予備車に回すとのことでした。

② 自動心肺蘇生機は、救急車5台中2台配備のため、残り3台を購入。出動回数が多い本署救急車に整備されていない事実に驚き、早急に配備するよう要望しました。

主な事業名	内容	予算(千円)
ふれあい交流施設管理運営経費	やさと温泉ゆりの里運営安定化支援金	38,096
高齢者等 PCR 検査事業	65歳以上の方及び基礎疾患を有する方	5,940
高齢者福祉施設等従事者商品券配布事業	一人2万4千円分の商品券配布	67,678
子育て生活支援特別給付金給付事業	子育て中のひとり親世帯支援（1人5万円）	55,315
医療機関従事者商品券配布事業	一人2万4千円分の商品券配布	73,039
キャッシュレス決済ポイント還元委託	キャッシュレスポイントを割増しで付与	37,630
プレミアム商品券発行事業補助	商工会議所発行商品券事業への補助	35,440
高規格消防自動車整備事業	消防本部への救急車1台整備	32,230
消防活動経費	自動心肺蘇生機及び人工呼吸器バック購入	10,461

六. 似て非なる山車を伝承館に展示

石岡駅西口の石岡文化伝承館に「石岡市」という提灯を取り付けた小ぶりな山車が展示されています。石岡市のおまつりで見る山車とは趣を変えて、随分小さいと感じると思います。

(1) 平成30当初予算に突然の提案

事の始まりは、平成30年度当初予算に**突然提案**された山車製作業務委託2千500万円（補助率2分の1）の事業です。国の地方創成推進交付金事業の「**補助枠があるから**」との甘い言葉で急遽予算化したのか、体験型あるいはイベント用としての目的や運行の際の安全性が疑問視されました。

(2) 金丸町の山車を修繕するはずが

議会からの指摘もあり、新規の山車製作ではなく、大正11年に金丸町が東京から購入し、現在は石岡小学校に保管されている市指定文化財の山車を修復することにしました。しかし、調整に手間取り、予算は翌年度に繰越し。

専門業者が山車を確認したところ、部材の傷みが激しく修復は無理と判明。結果として交付金事業を断念しようとした年の暮れ・・・

(3) 交付金枠を新規で確保し再度事業化

補助枠の助言者から、補助事業を流すと他市に迷惑がかかるので急ぎ山車を作るようにと、要請が入りましたが、年度末まで残り3カ月、果たして山車が作れるのか。その後、県や国との協議で**新規の交付金枠**が認められ、令和2年度予算に山車製作予算が新たに計上されました。予算特別委員会担当課長は「何の問題も無く交付金が認められた」と答弁。「**他市に迷惑がかかる**」話はいったい何だったのか？不思議です。

観光課が製作目的・山車の運行は誰が行うのか、具体的な利活用方法、そして姿・形を精査できないままに発注した事で大きな問題が生じます。

(4) 目的と優先事項が一致しない山車

令和2年6月16日の経済建設消防委員会に、「石岡市体験型イベント用山車製作」契約締結と設計イメージ（当初設計A）が報告されました。

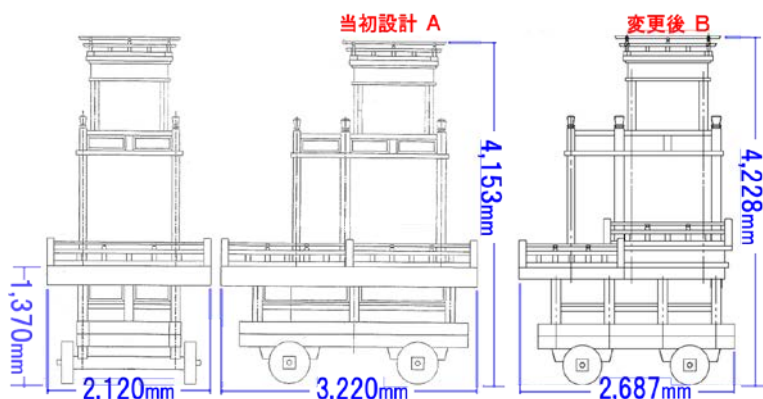
11月11日の委員会に、業者提案により安全性の問題から山車の長さを短く設計変更（変更後B）したことが事後報告されました。12月15日には制作途中の実物を確認。担当課の答弁から察するに、**運搬費軽減のため**に小さな山車としたようです。これ以降、各委員からは「貧相な山車」「石岡のおまつりの山車ではない」「展示専用にするべき」等、観光課の対応を非難する声で溢れることに。

(5) 市民に受け入れられる山車になるのか

石岡のおまつりで見る山車は、幅270cm前後、踊り場の高さ170cm程度。問題の山車の幅は212cmと極端に細く、踊り場の高さは137cmです。

山車製作の目的は石岡のおまつりと文化のアピールですが、**石岡のおまつりの山車とは似て非なる山車**で目的が達成できるのか疑問です。

関東三大祭りの一つ「川越祭」には市の山車が披露されますが、町会所有の山車同様に豪華絢爛です。果たして、イベント用山車は市民から愛されるのでしょうか？



七. 副市長に議会の洗礼

茨城県職員を早期退職し、石岡市の副市長に就任した田所副市長に対して、その出鼻を挫くように議会の洗礼が浴びせられました。

初登庁日の4月1日、庁議（幹部職員会議）での議会に関する副市長発言が職員によって漏洩し、**4月14日の議会運営委員会**において、発言の趣旨と違った形で問題視されました。委員会で議論するレベルで無いが、副市長が議会に初めて接する機会をとらえ議会の権威を示したかっと思われず。議員同士のやりとりは原稿棒読みだったと伝わっています。コロナ禍で課題山積の中、議会の権威を示したい議員と議会の様子は、議会ホームページ会議録で、是非ご確認ください。

八. 令和3年第2回定例会

第2回定例会は6月1日告示、6月8日（火曜日）開会、会議は全て午前10時開始予定です。

日程表の黄色の会議は、市議会ホームページからインターネットを利用して生中継を閲覧できます。録画放映は、会議後1週間から10日ほど後にホームページに掲載される予定となっています。

第2回定例会日程

月 日	曜日	会議内容
6月8日	火	開 会
9日~13日		休 会
6月14日	月	一般質問
6月15日	火	一般質問
6月16日	水	一般質問
6月17日	木	議案質疑
6月18日	金	教育福祉環境委員会
19日・20日		休 会
6月21日	月	総務委員会
6月22日	火	経済建設消防委員会
6月23日	水	議会運営委員会
6月24日	木	採決・閉会